

## 駒ヶ根市文化財

名称	大法寺の仏涅槃図
種別	美術工芸品(絵画)
指定	市・有形文化財(平成 25・2・26)
所在地	赤穂 2868
所有者	大法寺
説明	<p>紙本着色(しほんちゃくしよく)。縦 135.5cm、横 130cm。</p> <p>図の右下に「御絵所」「姉崎永喜」と朱印が捺してあり、裏に「京四条通室町東江入ル町御絵所姉崎永喜畫之」の墨書(ぼくしょ)銘がある。また「奉寄進涅槃像為両親菩提也 大法寺常什也 享保三年戊戌二月十五日真浄山二代日栄 花印」の記載がある。なお箱蓋(ふた)裏には本寺(高遠蓮華寺)の住職が京都に赴いた砌(みぎり)にこれを求めたことが記してある。成立年代は享保 3 年(1718)江戸時代中期の姉崎永喜筆による作品で、平成 8 年(1996)、全面修復がなされ保存状態は良好である。</p> <p>涅槃というのは釈尊の入滅(にゆうめつ)(死)を表わした言葉である。四対の沙羅双樹に囲まれた宝台に、「頭北面西右脇」という姿勢で横たわる釈尊、その周りを諸菩薩・仏弟子・国王・大臣・天部・優婆塞(うばそく)・鬼神・禽獣(きんじゅう)などが一様に悲しんで見守る。天上には阿那律(あなりつ)に先導された仏母摩耶夫人(まやぶにん)が侍女に付き添われ、顔を両手で覆うようにして降下する図柄が描かれている。</p> <p>京都の専門の絵師によって描かれており、仏涅槃図としては様式の整った図柄といえる。釈尊・会衆(えしゅう)の描写はきわめて精緻(せいち)で彩色も優れている。この図は、昭和 55 年(1980)11 月、日蓮宗宗宝審議会より「日蓮宗宗宝」の指定を受けた。</p>



仏涅槃図